

普及だより

第137号 令和2年3月
茨城県 鹿行農林事務所
行方地域農業改良普及センター
電話 0299 (72) 0256
FAX 0299 (72) 1690



令和元年度 行方地域儲かる農業推進フォーラム ～地域における就農支援活動の取り組みについて～

行方地域は毎年十五名前後の農家子弟を中心に後継者が確保されていますが、農家数の減少や高齢化が進んでおり、近い将来を考えると農業の担い手確保対策が必要です。

そこで、二月四日に、行方市のレイクエコーにおいて、「地域における就農支援活動の取り組みについて」をテーマに、行方地域儲かる農業推進フォーラムを開催しました。当日は管内生産者や関係機関一二十六名が参加しました。フォーラムでは、「朝日里山ファームにおける就農支援体制と取り組み」について、NPO法人アグリやさとの柴山氏から講演をいただきました。その後、行方市の高柳氏から新規就農に関する体験談を話していただきました。

今回のフォーラムでは、研修生の受入相談から独立就農までを関係団体が連携して支援し、新規就農者の確保に成果を上げている事例を研修することで、行方地域の担い手確保対策を考えるための良い機会となりました。

行方地域農業後継者の育成

【農業学園】

毎年、新規就農者や就農間もない農業者を対象に農業学園を開催しています。

今年度も全七回の講座を開催し、第二回講座の「販売・流通視察研修」では、平成三十年に開場した「豊洲市場」及び茨城県のアンテナショップ「IBARAKI sense」を見学しました。「豊洲市場」では、担当者から、市場の役割や機能、流通の仕組みに関して説明を受けました。特に、販売価格の決め方について参加者の関心が高く、「市場価格が安くなる原因はなにか」などの質問を積極的にしていました。次年度以降も農業学園を開催予定です。是非、お気軽にご参加ください。



市場見学の様子

【農業後継者クラブ】

農業学園で意気投合した仲間間で結成された後継者クラブ「ミラクルTRICK」は、クラブ員五名で、月一回の定例会や親睦活動、農業経営の課題解決のためのプロジェクト活動等に取り組んでいます。今年度、クラブ員の新堀勝俊氏は、プロジェクトとして行方地域で栽培が拡大している加工用水稲品種「とよめき」の収量アップを目的に栽培試験を行いました。試験では慣行栽培と多肥栽培を比較し、多収性について検討しました。

このプロジェクト活動については、一月三十一日、茨城県庁講堂にて開催された「茨城県農業青年プロジェクト実績発表会」で発表し、優良賞を受賞、関東ブロックへの出場が決まりました。



プロジェクト活動の様子
(試験区の調査)

～農地中間管理事業を活用して農地集積を進めましょう～

令和元年度認定
茨城県女性農業士の紹介



箕輪 玲子さん
(行方市島並)
カンシヨ、加工トマトと施設シユンギクの複合経営に取り組んでいます。行方産野菜の情報発信やレシピ開発にも熱心で、女性ならではの活躍が期待されます。

令和元年度認定
茨城県青年農業士の紹介



箕輪 雅里さん
(行方市島並)
カンシヨの周年出荷を中心とした経営を行っています。若手生産者組織では品質向上を目的とした栽培試験に積極的に取り組んでいます。



根崎 良典さん
(行方市若海)
水稲を主体に施設トマト、トウモロコシの複合経営を行っています。直売所を中心に、出荷先に合わせた品質向上などに取り組んでいます。

行方カンシヨの生産振興

カンシヨは地域農業を支える基幹作物であり、普及センターでは関係機関と連携して栽培面だけでなく販売等多方面で支援を行っています。

近年では、連作による畑の地力低下対策として、畜ふん堆肥の施用や緑肥のすき込みが効果的であることを明らかにし、講習会等で生産者に周知することで、外観品質の向上を図っています。また、産地で輸出拡大を見据えていることから、普及員が農場評価員資格を取得し、GAPの取組み支援も行っています。

産地と連携した取組が実を結び、「行方」は名実ともに全国トップのカンシヨ産地へと成長しました。

こうした中、県では、「かんしよトッププランナー産地拡大事業」を今年度より開始し、カンシヨの更なる生産拡大を支援しています。美味しい行方カンシヨの生産が増え、今後は海外への輸出拡大も期待されます。

行方地域における需要に応じた米づくりの推進

行方地域では、JAなめがたしおさいと普及センターが連携して、実需から要望が挙がった業務用米の導入を進めており、加工用米「とよめき」の生産が拡大しています。

「とよめき」の多収栽培にむけた意識向上を図るため、平成三十年からJA主催で生産者大会を開催しています。今年度の大会では、普及センターから多収実現のための施肥方法や農薬使用、コシヒカリより収益性の高い「とよめき」経営モデルについて講習しました。続けて、反収が多い生産者の表彰式が行われ、八二八kg/一〇aの方が一位となりました。

普及センターでは、今後も「とよめき」の安定生産を支援してまいります。



生産者大会の様子

ハウスの強靱化対策を！

令和元年九月の台風十五号の影響で、行方地域では約十四億円の農業被害が発生し、そのうちハウス等の被害は十一億円と七十五%超を占めています。

行方地域は多品目園芸産地であり、品目や作型に応じて様々な形状のハウスが整備されていますが、今後も台風等の災害による施設被害が懸念されています。

パイプハウスの被害を最小限に抑えるための強靱化対策には大きく、三つの方法があります。

- ①筋交いやアーチパイプの追加など破損に対する補強
- ②アンカーの設置や妻面の破れ防止など浮き上がりに対する補強
- ③防風ネットの設置など風を弱める対応

台風・強風対策のため、立地条件、ハウスの構造や周辺の被害状況を把握し、自らの経営戦略に応じたハウスの強靱化に取り組みしましょう。

茨城県GAP第三者確認制度確認証が交付されました

令和元年十月四日にJAなめがたしおさい北浦地区葉物部会あさがお菜部会GAP部と甘藷部会連絡会GAP部が県GAPに登録されました。これを受けて同二十八日宮崎定夫あさがお菜部会長、高木雅雄甘藷部会長に確認証が交付されました。

各部会のGAPの取り組みが認められ、東京五輪やハサップなど新しい消費者ニーズに添えていく準備が整いました。

病害虫の予防防除は、周囲の作物も考慮しましょう

ここ数年、病気や害虫による被害が、様々な作物に広く発生しています。このため、自身の作物に被害がなくても、周囲の作物に病気や害虫の被害が及ばないよう、早めに予防防除を実施しましょう。

また、農薬散布を行う際は周辺の作物や人家、家畜類などを考慮し、気温・風向き・事前のお知らせなど、危害防止に十分配慮してください。